

特集 まちをみんなで盛り上げよう!①

金持を全国に発信!

縁起の良い名前で全国的に有名な金持神社(金持)をまちの観光の目玉にしようと、町観光協会を中心に、さまざまな取り組みが行われています。



観光客に土産品の説明をするスタッフの池座舞さん(黒坂)。笑顔の接客は基本



指画家、浜田珠鳳さん(写真左)も式典に参加

金持売店をリニューアル、年中無休営業へ

町観光協会(勝瀬節雄会長)は、金持神社を訪れる人などに土産物などを販売している「金持売店」の運営体制を一新、金持神社札所として4月18日に開店しました。

勝瀬会長は式典の中で、「春らんまんの中で新しくオープンすることができてうれしい。店員には、癒しの心をもつて対応してもらい、お客様に2度、3度と足を運んでもらえるようにしたい」とあいさつ、景山町長ら7人でのテープカットで、売店は新しいスタートを切りました。金持売店ができたのは20年前。山陰路観光キャンペーンで町が設置したものを地元住

民に管理を委託していました。が、このたび観光協会が管理をすることになりました。

店内には、現在3人の女性スタッフが観光協会の臨時職員として配置されており、観光客への対応のほか、売店に置く商品の開発も担当しています。そのうちの一人、宮崎佳代さん(根雨)は、「まちのPRの手助けができればと思い、スタッフ募集に応募しました。今は週3日程度出勤して店番をしています。毎日全国から本場に多くの人が来られます。遠くは北海道から来られた人もありましたね。接客の時には、やっぱり笑顔を基本にと心がけています」と、やはり笑顔で話します。

売店のこれからについては、「商品としてもっと地元産のものを置きたいので、いろいろな方面に声をかけています。また、私は町外の出身なので、まちの地理を勉強して、皆さんに道案内ができるようになりたいです」と抱負を語りました。



セルブひの手づくりの絵馬。力強いタッチの絵が特徴



商品を入れる紙袋も手づくり！

今までの売店には地元の土産物が少なかったため、観光協会は売店で販売する地元産の土産物などを募集しています。

現在では金持神社のお札、お守りなどの縁起物をはじめ、農産物加工所「大夢多夢」のスズハラモチや、キハダ染めの「黄色いハンカチ」、オシドリグッズなどが店頭に並び、ほかに、ブローチやきんちゃく袋など、まちの人たちの心のこもった手づくり品も数多く売られるようになってきているのも特徴です。

売店の商品も見直し、地元の産品が中心に

手づくりのカードケースやフクロウのマスコットを出品している松本よし子さん（濁谷）は、「古布などでマスコットを作っています。

開運のため黄色い布を使ったりと工夫しています。一人でも多くの人に福が訪れてほしいですね」と話します。また、観光協会は絵馬の製作を、障害がある人の自立支援施設、セルブひの（根雨）に依頼、馬や招き猫などの絵がていねいに書き込まれ、観光客にも人気の品となっています。

観光ガイドを育成、遠方からの観光客を案内

金持神社は、開運を求めて県外からも多くの観光客が訪れる、まちの重要な観光地のひとつ。観光協会は、昨年末から観光バスツアーを誘致し、東京や九州方面などからの団体客を受け入れています。

その際の案内役として、同時に地元住民有志による観光ガイドの育成を開始、現在では5人のガイドが、バスツアーの観光客を出迎えています。

提灯を手にお出迎え

温かい対応が好評

観光ガイドたちは、揃いの黄色い法被と、手に持った「金持神社」と書かれた提灯がトレードマーク。バスが売店に到着すると、「ようこそお越しくださいました」と笑顔で出迎え、さっそく神社へと案内します。

神社へ続く石段の脇には、「とつとりの名木百選」のひとつに選ばれているサワラの木や、中国原産の珍しい



黄色い法被と提灯が目印の観光ガイド

「チャンチンの木」があり、ガイドたちはその由来なども解説します。境内での宮司によるお払いなどの後は、鳥居前で記念写真を撮ったり売店へ案内したりと、観光客への細かい気配りが見られました。バスツアーで佐賀から来たという女性は、「神社には初めて来ました。こじんまりとしています。逆に風情があつていいですね。ガイドの人も温かい対応をしてくれてうれしいです」と話

ていました。

4月から観光ガイドになったばかりの松本智津子さん（根雨）は、「研修期間が終わり、これから本格的にガイドを始めますが、金持神社の歴史などひとつずつ勉強していきたい、訪れる皆さんに喜んでいただけるよう頑張りたいです」と意気込みを語りました。

多くのまちの人たちが関わりあい、観光の拠点になりつつある金持周辺。一度訪ねてみませんか。



神社の前で、由来などを解説